



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月6日

上場会社名 アートsparkホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3663 URL http://www.artspark.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野崎 慎也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 伊藤 賢 (TEL) 03-6820-9590
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	4,664	15.3	632	159.8	616	166.4	△651	—
2019年12月期第3四半期	4,047	43.1	243	△43.1	231	△44.6	221	△35.6

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 △642百万円(—%) 2019年12月期第3四半期 203百万円(△41.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	△79.91	△79.54
2019年12月期第3四半期	29.40	29.23

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	5,383	3,839	71.2
2019年12月期	5,811	4,528	77.8

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 3,831百万円 2019年12月期 4,520百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	6.00	6.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,287	16.8	561	131.9	535	132.4	△761	—	△93.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	8,157,720株	2019年12月期	8,153,720株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	3,534株	2019年12月期	3,375株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	8,150,711株	2019年12月期3Q	7,525,255株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、デジタルによるコンテンツの創作から利用・活用に至るまでの諸活動を、トータルに支援できる環境の提供を経営理念に掲げ、事業を推進しております。

当第3四半期連結累計期間におきましても、引き続きソフトウェアIPを核とした経営に重点を置き、開発リソースの戦略的配置等、経営効率向上に注力しております。

その結果、当社グループの第3四半期連結累計期間の売上高は4,664,777千円（前年同期比15.3%増）、営業利益はCandera GmbHののれん等の償却費334,126千円により632,842千円（前年同期比159.8%増）となりました。

また、経常利益につきましては、為替差損13,919千円を計上したこと等により、616,047千円の経常利益（前年同期比166.4%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、新型コロナウイルス感染症の自動車業界への影響を勘案し今後の事業計画を保守的に見直したことに伴い、子会社Candera GmbHに対して認識していたのれんの一部について、当第3四半期決算においてのれんの減損損失1,065,863千円を特別損失として計上したこと、税金費用202,124千円を控除したこと等により、651,363千円の親会社株主に帰属する四半期純損失（前年同期は221,289千円の純利益）となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

<クリエイターサポート事業>

当第3四半期連結累計期間においては、子会社の株式会社セルシスが提供する、マンガ・イラスト・アニメ制作ソフトウェア「CLIP STUDIO PAINT」シリーズの、2012年発売開始からの全世界における累計出荷本数が、800万本を超えました。

8月には、モバイル製品の世界的ブランドであるGalaxyシリーズに対応した「CLIP STUDIO PAINT for Galaxy」を全世界同時にGalaxy Storeで提供開始しました。あわせて8月より、前作の2.5倍の事前予約数を集め好評のサムスン社のフラッグシップAndroidタブレットである、Galaxy TabS7シリーズに、「CLIP STUDIO PAINT」が全世界でプリインストールされて出荷が開始されました。Galaxyに提供する「CLIP STUDIO PAINT」は、いずれもサブスクリプション課金モデルを採用しており、サービスの継続性を担保しながら収益化を図る環境の充実を図っております。これを受けまして、Galaxy及びGalaxyにペン技術を提供する株式会社ワコムと共同で、「国際イラストレーションコンテスト2020」を開催しております。

また、東映アニメーション株式会社のデジタル作画ソフトウェアとして「CLIP STUDIO PAINT for iPad」が採用されました。あわせて、iPad版「CLIP STUDIO PAINT」の企業向けボリュームライセンスプランの提供も開始しています。

この他、カリフォルニア州教育局を通じ、同州の1,600の高等学校、200万人の学生・教員の希望者全員に、「CLIP STUDIO PAINT DEBUT 6か月版」を無償で提供する等、利用者拡大に向けた施策を実施しております。

なお、7月には電子書籍ビューア「CLIP STUDIO READER」のメジャーバージョンアップも行い、カスタマイズ性が向上し、サービス内容に合わせた機能追加をサービス事業者側で自由に行えるようになり、よりニーズに合わせた利用が可能になりました。

以上の結果、売上高は3,513,275千円（前年同期比30.2%増）、営業利益は1,202,635千円（前年同期比97.9%増）となりました。

<UI/UX事業>

UI/UX事業では、自動車（四輪・二輪）関連分野を筆頭に、車載向けソフトウェア開発プラットフォーム「CGI Studio」（シージーアイスタジオ）、及び、HMIの基盤であるUIオーサリングソフトウェア群「exbeans UI Conductor」（エクスビーンズユーアイコンダクター）を中心とする自社IP製品の開発に注力しております。

UI/UX事業の主要な取引先である自動車業界においては、新型コロナウイルス感染症の影響により世界的に車両の生産数が減少し、厳しい状況になりました。各国政府の経済政策により、製造業の生産が回復傾向にあるものの、自動車業界における引き合いは先行き不透明な状況となっております。

このような状況の中、当社グループでは、UI/UX事業の一層の強化を目的に技術開発、新規顧客開拓を推進しております。

当第3四半期連結累計期間では、「CGI Studio」が、Cypress社の車載MCU「Traveo II」の最新シリーズである「Traveo II グラフィック MCU」において、マルチコアのような優れたデバイスの全てで利用可能なレンダリング処理を正式にサポートしました。

また、今夏リリースした最新版「CGI Studio 3.9」に、UIアートワークを自動的に処理し、HMI作成のユーザビリティ

を向上するAIベースのSmart Photoshop Importerプレビュー版が追加され、組み込みソフトウェアのデザインや開発情報を取り扱う米国の情報サイト「Embedded Computing Design」にて紹介されました。

この他、中国・上海で開催された「electronica China 2020」にて、富士通エレクトロニクス株式会社が、ソシオネクスト社製のハードウェアに実装した「CGI Studio」のデモ展示を行いました。

以上の結果、売上高は1,172,081千円（前年同期比14.4%減）、営業損失はのれん等の償却費334,126千円を含め、637,245千円（前年同期は316,298千円の営業損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて427,301千円減少し5,383,861千円となりました。この主な要因は、現金及び預金が643,532千円、ソフトウェアが202,757千円増加したものの減損等によりはのれんが1,294,262千円、償却により技術資産が76,733千円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて262,196千円増加し1,544,561千円となりました。この主な要因は、前受金が121,445千円、未払法人税等が108,865千円、賞与引当金が56,032千円増加したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べて689,498千円減少し3,839,299千円となりました。この主な要因は、利益剰余金が700,265千円減少したこと等によるものであります。なお、自己資本比率は、71.2%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、2020年2月14日の「2019年12月期決算短信」に公表いたしました通期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日2020年11月6日に公表しました「2020年12月期通期連結業績予想の修正、債務免除による特別利益の計上、特別損失の計上及び子会社の異動（連結子会社の孫会社化）に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,905,356	2,548,889
売掛金	464,404	485,712
製品	2,475	3,838
仕掛品	36,101	32,609
原材料及び貯蔵品	34,739	22,022
その他	271,220	478,521
貸倒引当金	△5,456	△3,644
流動資産合計	2,708,841	3,567,949
固定資産		
有形固定資産		
建物	134,770	134,770
減価償却累計額	△27,435	△35,493
建物(純額)	107,335	99,276
工具、器具及び備品	312,688	332,625
減価償却累計額	△196,902	△229,772
工具、器具及び備品(純額)	115,786	102,852
車両運搬具	3,924	—
減価償却累計額	△2,759	—
車両運搬具(純額)	1,164	—
有形固定資産合計	224,285	202,128
無形固定資産		
ソフトウェア	681,949	884,706
ソフトウェア仮勘定	3,555	869
のれん	1,294,262	—
顧客関連資産	117,341	96,634
技術資産	434,822	358,089
その他	137,947	64,313
無形固定資産合計	2,669,878	1,404,613
投資その他の資産		
投資有価証券	40,766	22,607
敷金及び保証金	163,533	163,583
繰延税金資産	—	10,994
その他	3,857	11,983
投資その他の資産合計	208,157	209,169
固定資産合計	3,102,321	1,815,912
資産合計	5,811,162	5,383,861

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	95,858	104,667
未払金	86,060	148,858
前受金	246,215	367,661
未払費用	195,263	142,248
未払法人税等	82,017	190,883
返品調整引当金	1,535	131
賞与引当金	60,404	116,437
その他	129,426	135,507
流動負債合計	896,781	1,206,396
固定負債		
役員退職慰労引当金	105,240	121,400
退職給付に係る負債	166,363	195,359
繰延税金負債	32,913	18,607
その他	81,066	2,798
固定負債合計	385,583	338,165
負債合計	1,282,364	1,544,561
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,493,012	1,494,554
資本剰余金	972,139	973,681
利益剰余金	2,059,924	1,359,658
自己株式	△3,268	△3,479
株主資本合計	4,521,807	3,824,415
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,636	9,203
為替換算調整勘定	△8,991	△2,024
その他の包括利益累計額合計	△1,354	7,178
新株予約権	8,345	7,705
純資産合計	4,528,797	3,839,299
負債純資産合計	5,811,162	5,383,861

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	4,047,063	4,664,777
売上原価	2,409,767	2,200,368
売上総利益	1,637,295	2,464,408
返品調整引当金戻入額	1,152	1,535
返品調整引当金繰入額	2,127	131
差引売上総利益	1,636,321	2,465,812
販売費及び一般管理費	1,392,729	1,832,969
営業利益	243,591	632,842
営業外収益		
受取利息	35	52
受取配当金	682	122
その他	1	3
営業外収益合計	719	178
営業外費用		
支払利息	5,398	—
為替差損	4,042	13,919
その他	3,597	3,054
営業外費用合計	13,037	16,973
経常利益	231,273	616,047
特別利益		
投資有価証券売却益	25,785	—
新株予約権戻入益	—	576
特別利益合計	25,785	576
特別損失		
減損損失	—	1,065,863
固定資産除却損	9,387	—
投資有価証券評価損	15,267	—
特別損失合計	24,655	1,065,863
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	232,404	△449,239
法人税等	11,114	202,124
四半期純利益又は四半期純損失(△)	221,289	△651,363
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	221,289	△651,363

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	221,289	△651,363
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,269	1,567
為替換算調整勘定	△19,177	6,966
その他の包括利益合計	△17,907	8,533
四半期包括利益	203,381	△642,829
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	203,381	△642,829
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法としております。

(会計方針の変更)

(在外子会社等の会計処理に関する当面の取扱いに関する改正実務対応報告等の適用)

改正実務対応報告第18号「連結財務諸表作成における在外子会社等の会計処理に関する当面の取扱い」(2018年9月14日)を、第1四半期連結会計期間より適用しております。当該改正実務対応報告の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリエイター サポート事業	UI/UX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,678,368	1,368,695	4,047,063	—	4,047,063
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21,018	—	21,018	△21,018	—
計	2,699,387	1,368,695	4,068,082	△21,018	4,047,063
セグメント利益又は損 失(△)	607,665	△316,298	291,366	△47,774	243,591

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、Candera GmbHの株式を取得し、子会社となったため、連結の範囲に含めております。これに伴い、当第3四半期連結累計期間において報告セグメントの資産の金額は、「UI/UX事業」において2,719,497千円増加しております。なお、当該資産の金額は、暫定的な会計処理の確定に伴う見直し反映後の金額であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

UI/UX事業において、Candera GmbHの株式の取得をいたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,399,142千円であります。なお、当該のれんの金額は、暫定的な会計処理の確定に伴う見直し反映後の金額であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリエイター サポート事業	UI/UX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,513,275	1,151,501	4,664,777	—	4,664,777
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	20,579	20,579	△20,579	—
計	3,513,275	1,172,081	4,685,357	△20,579	4,664,777
セグメント利益又は損 失(△)	1,202,635	△637,245	565,389	67,453	632,842

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

UI/UX事業において、当初の事業計画に対する進捗状況及び今後の業績の見通しを考慮した結果、当初想定していた超過収益力が見込めなくなったと判断し、のれんについて減損損失を計上しております。なお、当該事象によるのれんの減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において1,065,863千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

UI/UX事業において、減損損失を計上したため、のれんが減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は当第3四半期連結累計期間において1,065,863千円であります。